

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <山形県 菓子 >
観光地における土産物の売上げが減少している。イベント開催はコロナ前の水準まで戻っているが、消費者の購買力は低迷し直営店の休店もある。
2. <栃木県 めん類 >
年末に向かい、食品の小売販売も上向いてきている。前月に続き価格転嫁が進んでいるが、販売数量の減少傾向が続いている。消費者の生活防衛意識が強く、少しでも安いものを求めている傾向が顕著だ。
3. <岐阜県 米菓 >
景気観が「財布の紐を固く」という状況であるため、嗜好食品である米菓業界にとっては厳しい状況にある。資材、原材料費、燃料費の高騰・高止まりは変わらず、売上・収益は悪化している。
4. <長崎県 食料品 >
物価高騰等の影響もあり、消費者の節約等で商品の売上が減少している。また、原材料の高騰もあり収益も減少している。今後の御歳暮商戦にも期待が出来ない状況である。
5. <大分県 菓子 >
物価高騰により商品の値上げを余儀なくされ、やはり嗜好品である菓子は後回しにされ売上個数が減少する傾向にある。年々上昇する最低賃金を支払うことも厳しくなり事業を縮小する事業所も少なくない。
6. <沖縄県 酒類 >
売上高は前年同月と比較して回復傾向にあるが、昨年は値上げもあり数量ベースでは減少である。資材費等の値上げがまだまだ続いており、収益面では厳しい状況が続く見込みである。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >
11月は前年同月比で売上が減少した。暖冬予測に加え、コロナ禍で抑圧されていた消費意欲の復活については一段落したとの見方から、アパレル各社の発注数量が減少した。
8. <東京都 帆布 >
全体的には仕事量は非常に低迷し、景況がとても悪い。組合の売上高も非常に減少している。材料費の高騰を受けて今年は値上げを2回実施したが、収益は増えていない。
9. <岐阜県 擦糸 >
擦糸加工賃は10%程上昇しているが、収益は微減となっている。加工スペースは、衣料向けが空いてきたが、ユニフォーム関係の受注は堅調である。資材関係も空き気味である。
10. <奈良県 繊維 >
気温が低下した中旬以降は防寒物の需要が一気に浮上し、百貨店・専門店ともに多くの店舗が前年実績を上回った。業界の景況としても多忙を極めるメーカーが少しずつ見受けられるようになってきている。
11. <島根県 アパレル等 >
今年は例年になく気温が高いせいか、注文が昨年に比べ約20%落ち込んだ。11月は新規技能実習生の入国の時期であり、今年もインドネシアより13名の技能実習生を受け入れた。
12. <愛媛県 タオル >
ギフト需要に加えて小売関係も芳しくなく生産は鈍い状況である。ライフスタイルの変化等が生じていることや、消費者の生活防衛意識の高まりから先行きにも不安感がある。

木材・木製品製造業

13. <岩手県 木材チップ >
針葉樹は7月以降前年比15～25%出荷量が減少。製紙の需要減少による減産とバイオマス発電の需要増加によるものと推測。原木価格はバイオマス発電との競合により高値で推移し、採算が合わない。
14. <福島県 製材 >
原木価格は柱取り丸太を中心にスギ、ヒノキとも上昇しているが、住宅着工の回復が見られず製材品の荷動きは低調が続いており、原料の価格転嫁は進んでいない。
15. <茨城県 プレカット >
11月は機械加工以外の加工もあり、工場生産は忙しい状況となった。米松材の入荷予定が分からず、加工スケジュールの見直しが多くなっている。見積物件が少なく、年明け以降の加工に影響が出そうである。

16. <京 都 府 製材・木製品 >
円安の影響により輸入材が高止まりしており、国産材も労働環境の改善（賃上げ）や輸送費、取り扱いの減少によるコストアップで価格は上がる傾向にあり、先が見えにくいいため動きが鈍い。
17. <香 川 県 家具 >
円安、物価高の影響は続いており、家具小売業界の業況は回復していない。原材費高騰は落ち着いているが、下がることはなく価格転嫁した商品はやや落ち込んでいる。
18. <福 岡 県 家具 >
円安の影響で資材価格や関連経費が上昇し、物価上昇に拍車がかかっている。生活防衛から耐久消費財の購入が減少している中、家具の需要も停滞しているのが現状である。

紙・紙加工品製造業

19. <茨 城 県 段ボール >
11月の段ボール業界の売上高の実績は、大手企業は前年同月比1～2%ダウンしており、中小企業は同10～20%以上ダウンという結果で大手企業と中小企業の差がますます広がった。
20. <群 馬 県 紙製品 >
食品や家庭用品等の物価上昇により買い控えの動きがあり、販売数量が減少している。また、大手通販メーカーによる段ボール箱から紙袋に切り替える動きを危惧している。
21. <愛 知 県 紙器・段ボール >
全体的には年末年始を控えていても活況がない。特に御歳暮を中心としたギフトが悪い。インバウンドも中国が少なく人出の割りに土産物が売れない。
22. <福 井 県 和紙 >
長引く円安により輸入原材料価格が高止まりし、経営を圧迫し続けている。観光客は徐々に増えつつあり、外国観光客も欧米人を中心に増えてきたがインバウンド需要と呼べるほどのものではない。
23. <兵 庫 県 紙・紙加工品 >
前年同期と比べると数量ベースで減少傾向、売上ベースで現状維持である。その背景として、値上げが奏功した。海外からの観光客需要については、コロナ禍前に戻りつつある。
24. <高 知 県 手すき和紙 >
原材料等の高騰により仕入れ価格が高くなって、収益の幅が少なく厳しい状況。価格転嫁は一段落ついたが、まだまだ不安定な状態なので、厳しい状況に変わりはない。

印刷

25. <岩 手 県 印刷・同関連 >
売上・収益ともにコロナ以前の8割程度にとどまっている。印刷物の需要の減少はコロナ以前から続いていたが、その速度が加速している。前年対比では増加傾向だが来年に向けての伸びが見通せない。
26. <神 奈 川 県 製本 >
昨年より仕事量は微増しているが製造コストは上昇しており、価格転嫁も追いつかない状況が続く。倒産状況も増えており各社資金繰りは厳しい。
27. <富 山 県 印刷 >
印刷資材の値上がりは全てに及んだが、ようやく一段落してきている。価格転嫁の浸透度はまだ5割程度で、業界や受注スパンの長さによってバラつきがある。商業印刷部門では、印刷の紙離れが進んでいる。
28. <徳 島 県 印刷 >
11月も売上高が減少する厳しい月となった。ブラックフライデー等の影響でチラシ関係は回復した模様だが、年末を控えて景気上向きの気配はあまり感じられない。
29. <高 知 県 印刷 >
3カ月連続で売上増加、設備操業度上昇だったが、当月は売上不変、設備操業度低下。県外需要は回復傾向が見られるが、肝心の県内需要が選挙期間中という事もあり低迷し全体に落ち込んだ。
30. <鹿 児 島 県 印刷 >
印刷に欠かせない紙が昨年から大幅な値上げとなったが、顧客への価格転嫁が難しい現状である。印刷機を洗浄する洗い油も価格が落ち着いていたが年末になり再度値上げとなった。

化学・ゴム

31. <愛 知 県 高圧ガス >
輸送機器向けは順調な出荷状況が続いており、工作機械、半導体向けの前年並みの実績で推移している。自動車のEV化は、製造工程の変化に伴うガス使用量の減少が予想され将来への不安が大きい。
32. <岐 阜 県 プラスチック >
前年同時期より荷動きが芳しくないが、燃料調整費が下がってきているので、昨年よりは利益水準が好転傾向である。

33. <奈良県 プラスチック >
材料資材、エネルギーコストや人件費の高騰による値上げ交渉については一定の理解が得られ、受入れが徐々に進んでいるが、更なる材料費の値上げが予定されており早急な円安対策を望む声が多い。
34. <大阪府 石鹼洗剤 >
洗浄剤等全体では、販売数量はほぼ前年並、販売金額では原材料原燃料の値上りから価格改定が徐々に受け入れられて前年を上回る動きとなっている。品目別では石鹼が好調で市場を牽引している。
35. <岡山県 ゴム >
売上は回復しているが、販売価格への反映は未だ不十分。原料・材料費、エネルギーコストの上昇、最低賃金上昇による労務費増なども続いており、収益的には期待しているほどには回復していない。
36. <広島県 プラスチック製品 >
自動車関係等、全体に売り上げが回復傾向にある。一方で、材料単価が上昇して材料比率が高くなる傾向にある。

窯業・土石製品製造業

37. <宮城県 コンクリート製品 >
出荷量は前年同月比で10%減少しており、4～10月の累計出荷量も前年同期比で12%の減少となっている。これから繁忙期となる時期ではあるが、今後の出荷量に不安がある。
38. <秋田県 生コンクリート >
11月の出荷数量は、前年同月比86.7%、4月から11月の累計では前年比82.9%と低迷した。公共工事の入札不調が続いているため、出荷数量は一部の地区を除き、前年を大幅に下回った。
39. <山口県 コンクリート製品 >
前年比38%の出荷減少。原材料、動力費の値上げにより、1月より10～15%の値上げの案内を通知した。支払手数料等の費用負担をお客様に12月より依頼している。
40. <徳島県 生コンクリート >
11月の出荷数量は対前年同月比15%減であった。要因としては民需において新規着工が減少している。工場での収益については、価格引き上げにもかかわらず大幅な出荷数量の減少により依然として厳しい。
41. <高知県 生コンクリート >
11月度の全組合員の出荷量は、単月で対前年比82.9%、4月からの累計は90.5%で単月の対前年比が約10%減少した。セメントの値上げがあったが、一部の地域で価格転嫁が進んでいない。
42. <宮崎県 窯業・土石製品 >
11月出荷数量は昨年同月比67%、4～11月累計出荷数量は昨年比87%となった。まだ大型出荷が見込める案件がなく、小中規模の現場に多数対応している状況である。

鉄鋼・金属製造業

43. <宮城県 機械金属 >
先月に引き続き設備投資が減少傾向にあり、売上高の低迷が続いている。併せて原材料等の値上げや人件費の高騰による原価の圧迫が昨年より更に厳しくなっている。
44. <岐阜県 金属製品 >
今まで好調であった包丁の受注が、輸出向けのほか、百貨店やホームセンターなどの実店舗向けの包丁を中心に減少。また、鋼材が以前より早く入荷できるようになり、刃物業界の景気悪化が感じられる。
45. <京都府 金属プレス製品 >
売上高増加企業20%、減少企業60%であった。販売価格は50%の企業が上昇している。但し、材料費の上昇に対して値上げが追い付いていない状況であり、収益は50%の企業が悪化している。
46. <和歌山県 金属製品 >
全体として、受注増、売上増がみられる。景況感も穏やかに改善していると思われるが、依然として国際情勢の影響が大きく、今後の海外経済の動きに期待したい。
47. <島根県 非鉄金属 >
昨対比8.5%減。広島の自動車部品関係は好調だが、それ以上に建機の落ち込みが多くなった。量産以外の仕事が落ちているので人員を量産に回してやりくりしている。
48. <福岡県 鉄素形材 >
一般産業用機械関連は、受注が増加しているところが出ている。電気・ガス・石油等、主要な副資材価格の上昇については、可能な限りデータ化することで販売価格に転嫁することを受け入れてもらえた。

一般機器製造業

49. <秋田県 金属加工 >
11月の売上高は、前年同月を下回った。受注については、前年同月比で20～30%減少している企業が多い。一部で、主要取引先からの大幅な受注減が予想される企業もあり、先行不透明な状況が続いている。

50. <茨城県 生産用機械 >
対象7組合員の売上高は前年同月比で1社増加、6社減少であった。団地全体の売上高は、主要取引先からの受注が前年同月比72%と減少したことを主要因として4カ月連続で減収となった。
51. <愛知県 鉄工 >
自動車の生産が好調にも関わらず、長引く円安と材料費・エネルギー費高騰、人件費上昇が響いて、殆どの会員企業では収益向上に繋がっていない。採用活動でも人材が思う様に採れていない様である。
52. <三重県 一般機器 >
自動車部品の一部で注文が減り、前月より売上は減少した。売上高は昨年より増加したものの、材料価格上昇分の転嫁によるもので、光熱費や人件費については中々値上げできず、収支は悪化となった。
53. <徳島県 機械金属 >
一部に景況感の持ち直しの動きも見られるものの、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、部品の調達難、受注状況の悪化が懸念される。
54. <愛媛県 鉄工 >
状況にあまり変化はない。円安、物価高、採用難、人件費増等、経営を圧迫する要因が多い。この状態が来年も続けば、更に製品の値上げを実施する必要に迫られ、買い控えがおきないか懸念される。

電気機器製造業

55. <群馬県 電気機械器具 >
前年比で約1割伸びており好調が続く。来年夏頃に半導体需要のピークを迎える見通しで、生産体制の強化に向けた設備投資を活発に進めている。
56. <埼玉県 通信機械器具 >
工場の稼働率上昇のため、全体的に活気づいている。しかし、数年先の発注まで見込まれている訳ではないので、新規に人材を採用せず、現在の人員で対応している。
57. <山梨県 電気機械器具 >
受注量の減少が長引いていることに加え、少ない案件に対する価格競争、新たな取引先や分野への打診など課題が多く、前年同月と比べ売上げは▲40%、収益状況は▲35%となった。
58. <静岡県 電気機械器具 >
10月の白物家電の業界統計では消費者マインドの冷え込みやサービス消費へのシフトなどによりマイナスとなった。大型冷蔵庫は販売低迷により生産はマイナスが続いている。
59. <愛知県 電気機器 >
売上は減少傾向。反面在庫は減少傾向で資金繰りは好転。来期4月以降も同じ傾向であれば、人員削減等の具体的な対策を打つ必要がある。
60. <兵庫県 電子部品・デバイス >
11月の国内自動車販売台数は、前年同月比9.0%増と15カ月連続でプラスとなった。米国は前年同月比8.9%増で、日本メーカーが好調であった。上記により組合員各社の生産は好調である。

輸送用機器製造業

61. <群馬県 輸送用機械器具 >
自動車のEVシフトが急加速しており、部品生産への影響を懸念している。また、コロナゼロゼロ融資の返済が始まり、厳しさに拍車がかかる。
62. <静岡県 輸送用機械器具 >
四輪の生産は順調に回復してきて多忙な状況となっているが、その他の製品群ではモデルによって市況の影響が出ており受注部品によって企業毎に生産量の差が出ている。
63. <愛知県 輸送機器 >
売上は前年同月比14%減と低迷が続く。特に主力の輸送機器関連事業は、前年同月比15%減と依然落ち込みが大きい。一方、建設機械関連の売上は伸びている。
64. <兵庫県 輸送用機械器具 >
前年同月比8.4%の減収。先月までの売上が継続するかと思っていたので、大幅な減収で残念な結果となった。2023年度の売上予想は直近5年間では一番良い数値となる予定であり、次年度も期待したい。
65. <愛媛県 造船 >
外国人労働者の新規受入が進んおり、これまで採用していなかった事業主からの受入れ希望も増加している。技能実習から特定技能への移行手続きも増える一方で、特定技能者からは転職の相談が増えている。
66. <大分県 造船 >
人材確保に苦慮している。外国人特定技能者の受け入れから実習生受け入れにシフトを切り換えて対応している。

その他の製造業

67. <秋田県 曲げわっぱ >
11月の売上は、ふるさと納税制度の変更による駆け込み需要が落ち着いたこともあり、前年同月比で減少した。賃上げの実現のため、値上げも検討しているが、消費者の理解が得られるかどうか危惧している。
68. <東京都 ガス圧接 >
稼働率は横ばい状態が続いている。先行きの状況は良くない。アセチレン（ガス）について、1月からまた値上げするとの話が浮上しており、業界の先行きは不透明である。
69. <富山県 漆器 >
観光客や記念品の販売に動きが見られる。イベントでの体験会も盛況で、これからの動向に期待している。
70. <石川県 漆器 >
観光バスなどが10月中旬より少しずつ増加しており、外国人の旅行者も増えている状況である。生産の方では原材料などの高騰が続き、価格転嫁を進めている。
71. <福井県 眼鏡工業 >
OEMを中心に受注は堅調な状況が続いている。産地では、本格的な生産性向上のため、試験的に海外製フレーム製造設備の導入を決定、年明けに試験生産に入る。
72. <香川県 漆器 >
毎年開かれてきた地元百貨店での地場の伝統工芸品店がなくなり、商工会開催のフェスタが会場の都合で一部の事業者の出店ができなくなる等、行政の補助による催事が今後どうなっていくか心配である。

《非製造業》

卸売業

73. <北海道 各種商品 >
靴履物は降雪により冬物の動きが活発となり、百貨店・量販店での需要が増加したことで、前年を上回る売上となっている。価格改定も段階的に進んでおり収益も改善している。
74. <東京都 ニット製品 >
月初から暖かい日が続いていたが、後半に入ってから寒気が戻り、冬物衣料品の売れ行きが伸びてきている。前年同月比では大幅に業況が改善した。
75. <長野県 各種商品 >
前月と同様に市場環境は活発で引き合いも増加傾向にある。どの業界も人材不足が深刻な課題であり、早急に手を打っていかねば大変な事になりそうだ。
76. <山梨県 塗料 >
前年同月と比べ売上は47%増加、収益状況は56%好転した。若手人材の不足から、高齢の従業員を主力から外すことができず、人手不足による廃業が現実味を帯びてきたと感じる。
77. <大阪府 電気機器 >
電設、電線部門ともに、売上は好調に推移（前年同月比約10%増）。粗利については、一時期より低下するも総じて好調に推移している。各社ともに総じて順調な業績を確保している。
78. <広島県 電設資材 >
業界全体の売上は順調な推移だが、業界の問題として品不足が継続している。高圧、幹線ケーブルが現在受注ストップ、出荷制限などが発生している状況で、生産が追い付かない状況。

小売業

79. <北海道 各種商品 >
11月の観光はオフシーズンとなり、人通りは少なくなっている。降雪も少なく冬物商品の需要が伸びていない。業種別では、物価高の先行き不安感から、家電が76%と低調な売り上げとなった。
80. <青森県 家電 >
県で展開中の「省エネ家電買替え応援キャンペーン」も好調な推移を示している。電気料金の値上げで昨年度から多くの消費者が悲鳴を上げている中、省エネ家電への買替えは大きな関心と呼んでいる。
81. <富山県 燃料 >
県外客の利用が若干増えたエリアもあるが、物価高による個人消費の抑制から需要の回復感は弱く、ガソリン販売量は、先月に続き前年を割り込む状況が続く見込みである。
82. <山口県 化粧品 >
各メーカーから新商品やクリスマス商品等が発売され、売上が増加した模様。スキンケア商品の知名度を上げるために組合が大手化粧品メーカーに長期に要望していたTVコマーシャルの放映が実現した。
83. <香川県 青果物 >
国内外の旅行時にインバウンド需要が景気の後押しをしている。また、様々な物の値上げに重ね、野菜の高騰が続いたが、中旬頃から少しずつ落ち着きをみせてきた。
84. <宮崎県 石油販売 >
暖冬により、冬場の主力商品である灯油の販売が低調である。原油価格の高止まりにより、石油製品の販売価格が高騰したままで需要が停滞している。年末年始の需要を期待したい。

商店街

85. <青森県 商店街 >
毎年11月は、12月の最繁忙期を前にするため、買い控えとなる。飲食店においては、クリスマスと忘年会シーズン前ということもあり低調な様子。
86. <長野県 商店街 >
観光地では多くの観光客が来ているが、当商店街の加盟店は飲食店を除きその恩恵を預かっていない。昨年はプレミアム商品券やクーポン券事業を実施したが、今年はないので少々心配している。
87. <鳥取県 商店街 >
コロナ禍も明け、中心市街地以外でも様々なイベントが開催されており、消費者の外出する意識は高まっていると感じている。飲食店ではカニ料理のシーズンとなり観光客等の来店も多い様子。

88. <佐賀県 商店街 >
組合員の皆さんと協力して商店街歩道内の花壇に花苗を植えた。商店街通りをきれいにすることで、人を呼び込み安心できる商店街となっている。
89. <長崎県 商店街 >
11月も景況は概ね安定して好調のようである。商店街の空き店舗も久しぶりに2店舗ほど入居が決まり、年末に向けて消費の方も加速的に伸びる事を期待している。
90. <熊本県 商店街 >
11月前半は温かったのが冬物の動きが鈍かった。後半に寒さがやってきたが、前半のマイナスをカバーできなかった。

サービス業

91. <山梨県 宿泊 >
秋の行楽シーズンによって観光客・宿泊施設の利用者が増加し、週末は多くの施設が予約で満室となった。冬休みも人流の増加を期待しているが、人手不足が課題である。
92. <石川県 旅館、ホテル >
入れ込み客数対前年比103%、売上107%で好調であった。新型コロナウイルス感染症の規制明けの秋の行楽シーズンを迎えたことで増加しており、インバウンド客についても多く訪れており好調である。
93. <京都府 旅館 >
秋の観光トップシーズンに当たり、紅葉鑑賞を目的とした国内観光客も大変多い月であった。海外からの観光客も多く見かけるものの、若干落ち着いてきたようにも思える。
94. <奈良県 旅館・ホテル >
インバウンドの復活と観光シーズンにより、宿泊単価がアップして、売上は前年対比107%となる。
95. <高知県 旅館・ホテル >
宿泊は10, 11月実績が2019年を超え、収益状況は好転。宴会の動向も忘新年会の予約が増加し状況は良い。ただし、人手不足が深刻さを増し、客室等をフル稼働できず収益の最大化が困難である。
96. <宮崎県 観光 >
久しぶりに従来の繁忙期が戻ってきた。組合員も常に体調管理を心掛けながら、朝早くから夜遅くまで働き、全ての業務をイキイキと遂行していた。

建設業

97. <福島県 電気工事 >
一般住宅電気工事は、一部のハウスメーカーの建売住宅新築工事が増加傾向のため受注増加の見込み。関東圏に比較し、人件費等が低額に設定されているも、事業維持のため受注している会社が見受けられる。
98. <岐阜県 管設備工事 >
建売住宅物件の売れ残りがあり、以前のように次から次へと住宅建築が進んでいない。アパート、マンション等の建築が増加傾向であるが、請負金額が安価のため厳しい状況にある。
99. <富山県 鉄骨・鉄筋工事 >
地元中小物件の減少により、地場ゼネコンの過当競争も起きている。鉄骨加工業者は、商社・特約店物件の受注や大手鉄骨加工業者への加工協力などで、ある程度の工場稼働率を保っている。
100. <鳥取県 建設 >
住宅投資は3カ月平均はマイナスも、単月は前年比プラス。設備投資は、単月・3カ月平均ともに前年比プラス。公共投資は単月、年度累計ともに前年比プラスが続く等、持ち直しの動きが続いている。
101. <福岡県 電気工事 >
高圧ケーブルなど一部の資材が入手困難となってきたため工期が伸びてしまっている。更に職人不足により、受注を控えざるを得なくなっており、建設業全体としては悪化していると感じる。
102. <鹿児島県 管工事 >
雇用確保のため給与の引き上げや労働環境の整備を進めるが、大企業並みの好条件を出せる余力ある事業所は少ないことから、新たな人材の確保に苦戦している。

運輸業

103. <宮城県 タクシー >
需要形態が変化しつつある。週末は観光客、繁華街での需要があるが、平日はかなり少ない。なお、駅乗降客の利用は一定数あるが、市中での利用者は非常に少ない。
104. <秋田県 貨物自動車運送 >
11月は前年同月比で売上高や取引条件が好転した。荷物が増加しており、軽油の共同購買や輸送斡旋の売上も前月比で増加した。ただし、コロナ借入の返済できない企業もあり、今後厳しい状況も予想される。

105. < 栃 木 県 貨物自動車運送 >
地域の事業者では、食料品・飲料の荷動きが悪い。価格高騰が要因になっている。トラック輸送のコストが上昇しているが、再度の値上げを要請できない事業者が少なくない。
106. < 石 川 県 一般貨物自動車運送 >
輸送実績は対前年比で12.3%減少し、対前月比で8.4%減少した。企業によっては運賃値上げ交渉中も、価格改定は来年度にずれ込む可能性もあり収益は悪化している。
107. < 滋 賀 県 貨物運送 >
受注高は順調に増加している。この為、車両不足が目立ってきた。料金改定交渉の理解度が浸透して進展はしているが、希望する価格迄は到達しない。燃料価格は若干値下がりしたが高値は続いたままである。
108. < 山 口 県 一般貨物自動車運送 >
輸送量は53%の増加。国内向けはやや増加したが、輸出関係は減少。運転者の高齢化が進み、長距離運行に体力的な不安を感じる運転者が増え、運転者不足が目立つようになった。

その他の非製造業

109. < 千 葉 県 輸出入 >
11月に入り空港利用客数に鈍化がみられる。特に日本人旅行者においては、先月に比べて減少傾向を強く感じている。外国人利用客は、ほぼ変わらず来店し、免税対象金額に至るほどの購入も多々みられる。
110. < 神 奈 川 県 不動産 >
住宅設備全般・建築資材とも高騰する一方でなので住宅供給に伴う利幅は引き続き大きく減少している。
111. < 新 潟 県 砂利採取 >
生コン向け骨材の出荷は順調であるが、路盤材関係の出荷は低調。今年度はこのままの状況で推移していくと思われる。
112. < 奈 良 県 質屋 >
年末商戦の商材確保に向けて、中古ブランド品や高級時計、ジュエリーの動きが活発化している。為替相場は依然と円安傾向にあり、高級時計やブランドバッグは海外からの需要が続いている。
113. < 岡 山 県 信用組合 >
収益状況は各業種において厳しい状況が続いているが、継続的に積極的な資金繰り支援を行っている。11月上旬に開催したビジネスマッチングにおいては販路拡大等、本業支援が有意義に出来た。
114. < 福 岡 県 砂・砂利・玉石採取 >
船舶を所有している組合員について、燃料単価の高止まりにて収益を圧迫している状況が続いている。